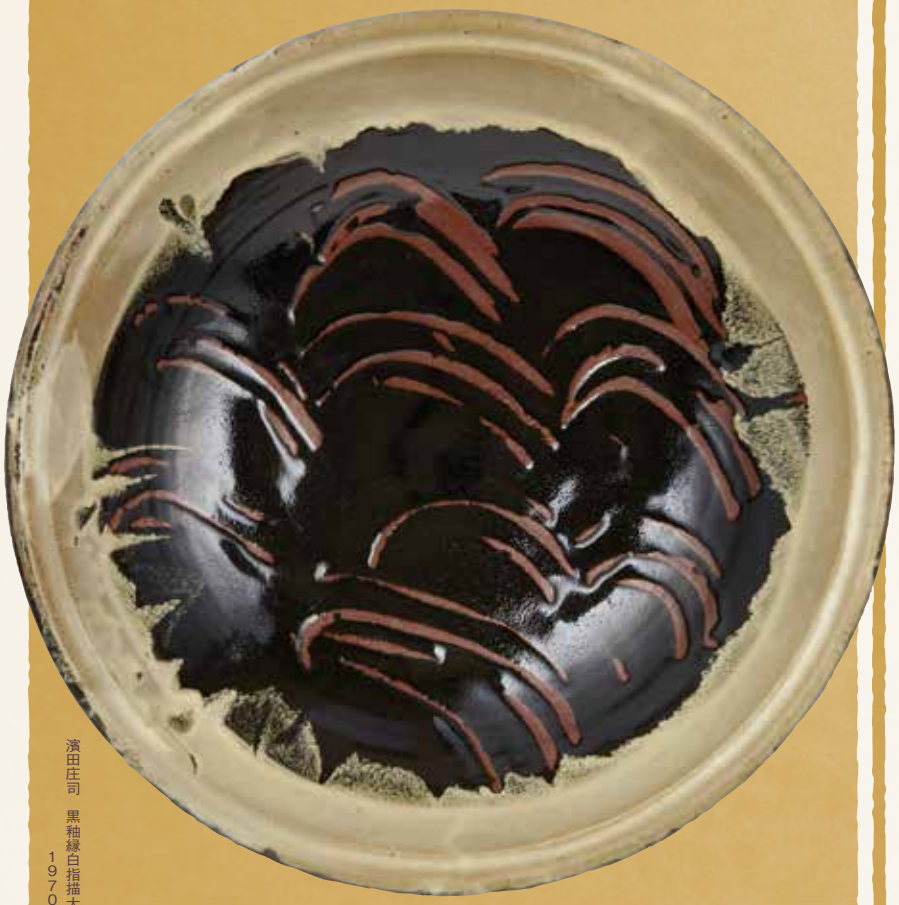
濱田庄司と芹沢銈介

Keisuke Serizawa

Shoji Hamada

民芸運動の巨匠とゆかりの作家達



濱田庄司　黒釉縁白指描大鉢　1970年

2016年 2月6日［土］–3月5日［土］

芹沢銈介　襞文着物　1960年

濱田庄司　掛合釉扁壺

芹沢銈介　風の字のれん　1957年

開館時間：午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
休 館 日：毎週月曜日
入 場 料：一般 500 円（中学生以下・65 才以上・障害者手帳など持参の方は無料）
企画協力：公益財団法人大阪日本民芸館
企画・運営：公益財団法人東大阪市文化振興協会

東大阪市民美術センター

〒578-0924　東大阪市吉田 6 丁目 7-22
TEL：072-964-1313　FAX：072-964-1596
HP：higashiosaka-art.org

濱田庄司と芹沢銈介

民芸運動の巨匠とゆかりの作家達

Keisuke Serizawa

Shoji Hamada

大正末期から昭和初期にかけて柳宗悦（1889-1961）らが中心となって興し、現在まで続く民芸運動は、無名の職人達が生み出した日常の道具に美を見出そうとする運動です。

陶芸家・濱田庄司と染色家・芹沢銈介は、共に民芸の美に共感し、運動を初期から牽引した作家です。彼らは、民芸の思想や日常品の持つ生き生きとした美を糧として、それぞれに独自の作品世界を築きあげていきました。さらに、民芸運動が提唱した新たな美の概念は、草創期を担った濱田、芹沢を通して次世代にも大きな影響を及ぼしていきます。

本展では、濱田庄司の陶芸作品と、芹沢銈介の染色作品を中心に、民芸運動ゆかりの作家たちの作品あわせて約150点を展示します。世代を超えて継承されていく、美の世界をぜひご覧ください。

濱田庄司（1894-1978）

神奈川県生まれ。東京高等工業学校（現東京工業大学）窯業科卒後、京都市陶磁器試験場に入所。渡英して作陶に励み、帰国後栃木県の益子に窯を築く。日本民藝館（東京）、大阪日本民芸館の館長も務めた。1955年、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定。生活に根ざした健やかで堅実な作風を確立した。

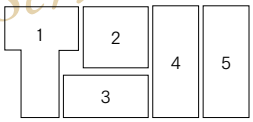
芹沢銈介（1895-1984）

静岡県生まれ。東京高等工業学校図案科卒。柳の論文「工藝の道」に感銘を受け、また沖縄の紅型に魅了されたことから染色家を志す。型紙を用いた「型絵染」という技法により、1956年、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定。着物・屏風・のれんなどを中心に美しい色彩にあふれた斬新なデザインの染色作品を生み出した。

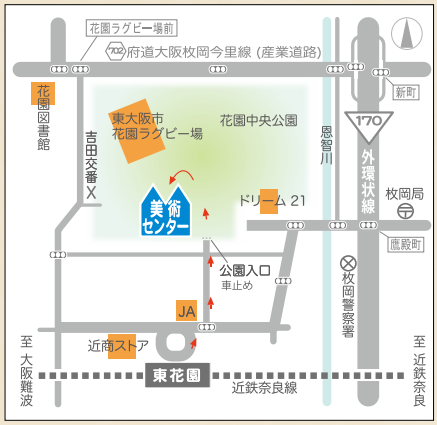
Shoji Hamada

濱田庄司
1. 白釉青流描大鉢（1970 年）
2. 白釉黒流描角鉢
3. 柿釉抜蝋扁壺
4. 赤絵皿
5. 藍塩釉櫛目鉢

Keisuke Serizawa



芹沢銈介
1. いろは文着物（1954 年）
2. 絵本　どんきほうて（1936 年）
3. 沖縄みやげ屏風（1971 年）
4. 微笑観音像（1947 年頃）
5. 文字入り四季文（1971 年）



記念講演会

平成28年2月21日（日）午後2時～3時30分
講師：濱田友緒氏（益子参考館館長）
演題：「益子焼・濱田窯　庄司・晋作・友緒　三代の系譜と展開」

参加ご希望の方は往復はがきに講演会参加希望・住所・氏名・年令・電話番号を記入の上、美術センターまでお申込みください。
申込締切は2月8日消印有効。定員80名。はがき1枚で1名のみ申込可。
申込多数の場合は抽選。なお、記念講演会は無料ですが、入場料が必要です。

ギャラリートーク

平成28年2月13日（土）午後2時～2時30分
講師　小野絢子氏（大阪日本民芸館学芸員）

申込は不要ですが、入場料が必要です。

東大阪市民美術センター

〒578-0924 東大阪市吉田 6 丁目 7-22
TEL：072-964-1313　FAX：072-964-1596
HP：higashiosaka-art.org